

着任医師のご紹介

HIROKO TSUNEOKA



常岡 寛子

ツネ オカ ヒロ コ

リハビリテーション科第一

KOUJI TAKIZAWA



瀧澤 晃司

タキ ザワ コウ ジ

リハビリテーション科第一

HISASHI TAKEDA



武田 悠

タケ ダ ヒサシ

リハビリテーション科第一

KOUKI ONO



小野 航暉

オ ノ コウ キ

リハビリテーション科第二

MASASHI SHIMODA



霜田 将之

シモ ダ マサ シ

整形外科

AYAKO NOMURA



野村 綾子

ノ ムラ アヤ コ

整形外科

予約方法

■予約センター

TEL:046-249-2489

(平日13時～16時15分)

①診療情報提供書を記入いただき、患者さんにお渡しください。

②患者さんより電話にて予約をお取りください。

アクセス

■お車の方



■新東名「伊勢原大山インター」より約10分

■東名高速「厚木インター」より約30分

■本厚木駅周辺から約30分

■電車・バスの方



■小田急小田原線の「本厚木駅」「愛甲石田駅」「伊勢原駅」から

バスにて20～30分程度

詳しくはホームページでご確認ください

神奈川リハビリテーション病院 地域連携広報誌

かなりは 地域連携室
だ より



緑に囲まれた自然豊かな環境で落ち着いてリハビリに取り組んでいます

特集

医療機関の専門性を活かして就労・
社会復帰に向けて寄り添うリハビリテーション
「職能科」

着任医師のご紹介

■予約方法 ■アクセス

2025.7

05



Instagram



@kanagawa_reha_hospital



Kanagawa Rehabilitation Hospital

神奈川リハビリテーション病院

設置者 神奈川県 / 指定管理者 神奈川県総合リハビリテーション事業団

住所：〒243-0121

神奈川県厚木市七沢516番地

TEL：046-249-2220（代表）

地域連携室 TEL：046-249-2222

FAX：046-249-2515

医療機関の専門性を活かして就労・社会復帰に向けて寄り添うリハビリテーション 「職能科」

神奈川リハビリテーション病院では、共に歩み、チームで支え、安心できるリハビリテーション医療を提供しています。今回は当院の職能科についてご紹介します。

神 奈川リハビリテーション病院の職能科は、患者の職場復帰や就労・社会参加というニーズにお応えするために職業リハビリテーションのサービスを提供しています。

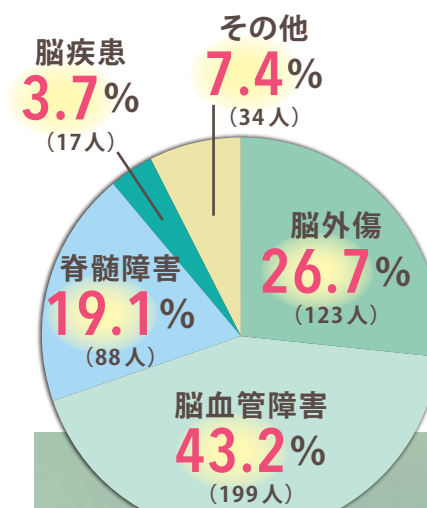
病院の中に就労支援を行う部門があるのは、全国的に見ても稀で、職業に関わる社会への窓口の役割を果たしています。対象となるのは、脳血管障害や脳外傷の後遺症による高次脳機能障害の方や、脊髄損傷・頸髄損傷で職場復帰・就労をされている方です。

当科では、急性期から移られた患者に早期から職業リハビリテーションを提供し、入院から外来へと継続した長期的な支援を行っています。また、地域の介護保険・障害福祉サービス・就労支援機関と連携した支援を行い、途切れないサポート体制を整えています。医療機関として専門的な視点でノウハウや情報を提供していることも、病院ならではの職業リハビリテーションの特色です。

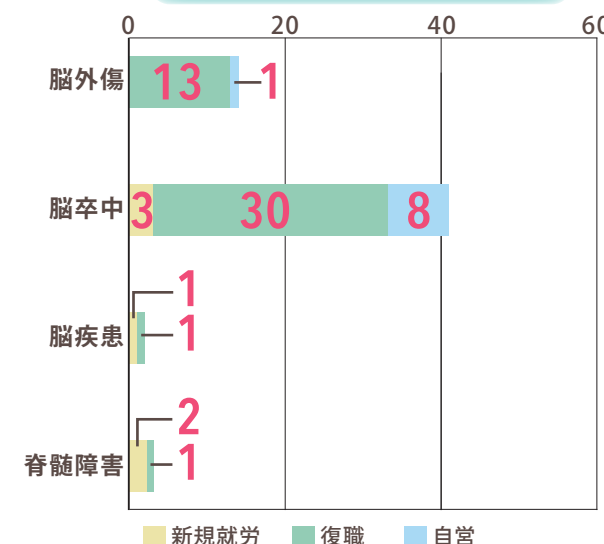


職業指導員 **5**名（社会福祉士・両立支援コーディネーター） 作業療法士 **4**名

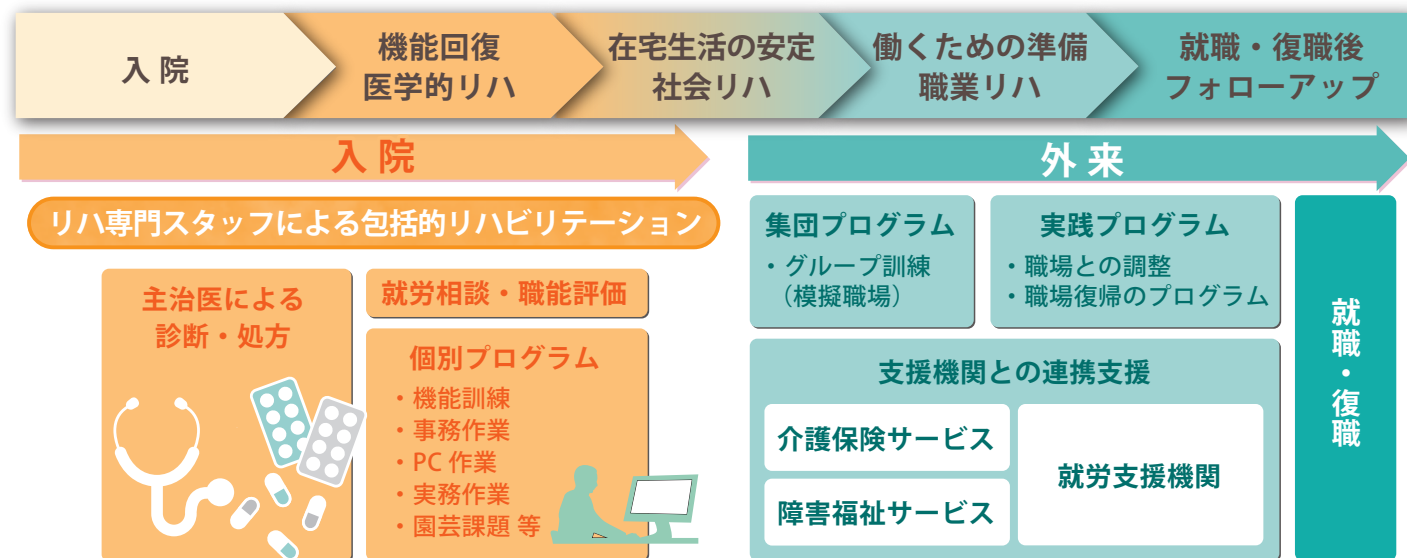
疾患別実人数（461人）



就職者（60人）の内訳



支援の流れ



就労相談・職能評価

就労に関するご相談や各種作業テストを活用した職能評価を実施し、今までと変わらずに出来ている事、症状の影響で苦手になっている事を把握します。職能評価をもとに、本人・家族と職業リハビリテーション計画を作成します。

個別プログラム

様々な作業を通じて、自身の状態に気づき、認識を深めていただけるよう支援いたします。「苦手になっていること」には、代償手段や環境調整などの対応方法を身につけるお手伝いをします。

集団プログラム

「模擬職場」「失語症交流会」「問題解決技能グループ」などの、グループワークを通して、当事者間の交流を図りながら自己理解を深めます。

その他

家族への支援
職場への支援
就労支援機関との連携支援

実践プログラム

就職・復職時に「リハビリ出勤」や「職場実習」を設定して、円滑な職業生活への移行を図れるようお手伝いいたします。

訓練室の様子



訓練室では、事務作業やPC作業などを行っています。事務課題では、職場を想定した環境で、業務分担や社会的スキルの獲得、パソコンスキルの向上を図っています。

屋外訓練の様子



園芸や作品制作などの実務課題では、注意力・集中力・判断力・耐久力の向上などを目的に行っています。作業は、車椅子の方や片手でも出来るよう、使いやすい道具の工夫などの環境設定を行っています。

支援の事例

Aさん（20代・女性）

自宅で脳出血を発症され、右片麻痺、失語症が後遺症として残りました。急性期病院を退院され、当病院の回復期リハビリテーション病棟に転院されました。職能科では、入院中に作業評価を行い、退院後は外来グループ訓練を通じて、就労に向けた準備を行いました。さらに就労支援機関との連携によるジョブコーチ支援を受け、就労支援機関のジョブコーチが職場へ赴いて専門的な支援を行いました。その結果、発症後15ヵ月後に事務職で新規就労されました。

Bさん（20代・男性）

脊髄神経疾患の大学生。進行性の運動麻痺により、電動車椅子を使用しヘルパーの付き添いで大学へ通学していました。就活の時期になり、在宅就労を希望して相談依頼がありました。在宅での作業を想定し、パソコン操作、車椅子姿勢、作業環境を評価。在宅就労に実績のある就労移行支援事業所と連携し、訓練を開始しました。半年でWeb関連の資格を取得。また一日6時間の訓練の実績が認められ、トライアル雇用で大手企業から内定をいただきました。今後は、在宅就労を支えるべく、連携してフォローしていきます。

こちらからご確認ください

「職能科通信」で評価・訓練や就労支援等の活動を掲載しています。

